岡山県立和気閑谷高等学校学校運営協議会　－第３回会議　議事録－

**日時**：令和３年３月５日（金）１５：３０～１７：００　　**場所**：県立和気閑谷高校記念会館２階会議室

**１　開会**会長挨拶、校長挨拶

**２　委員紹介**（出席委員９名）

**３　協議**

**（１）３部会の取組について**

**（２）学校関係者評価**

（主な意見）

・オープンスクールは魅力発信の最大の機会である。そこがC評価というのは寂しい。数値の評価であり、企画面等内容の評価が見られないので、来年度に向けてぜひ改善をしてほしい。

**（３）次年度の学校経営計画と予算について（グループ協議）**

（主な意見）

・どのような背景でこのグランドデザインができているのか、全ての教員が話せることが大切である。

・本校の現状は新聞等で発信できている。放課後学習支援も生徒はしっかり活動できている。今やっていること　　　　に加えてさらに何ができるか考えていく必要がある。対保護者への発信の機会を増加させる必要があるのではないか。また、企画の面から生徒に参加させて、生徒が授業を中心に楽しく学校生活が送れて力が付いているか検証できるような機会を増やしていく必要があるのではないか。

・協働体制の一つとして小中高接続部会の課題について協議した。協働のメンバーは和気町に絞られるという距離的な課題と、企業の協力をどのように体制づくりをすればよいかという予算の課題がある。活動は土日で保護者の送迎が必要である。すぐには難しいがJRや路線バスの協力を求めていく。予算面は学校として受け取るのか、クラウドファンディングの外部団体として受け取るのかという受け皿が決まれば協力できる企業もあるので、今後も検討を進めていきたい。

・学校満足度アンケートは、例えば、「学校の生活が楽しい」や「先生の指導に熱意を感じる」などは経年で数値が上がっている。教職員の熱意や生徒の資質の向上に取組んでいるのが生徒に伝わっているのではないかと感じた。その部分で、先ほど７つのチカラをグランドデザインに反映するという意見があったが、和気高の魅力をしっかりアピールして、生徒の実態からグランドデザインに持っていくというような生徒中心の部分がいる。

・ある高等学校の先生から「対話的主体的で深い学び」は生徒より教員が追い付いていない実態があるという話を聞いた。新指導要領に向けて教員の学びを深めていただきたい。

・市の総合戦略を立てる立場として、計画を立てるときには、経年の取組と結果（成果・課題）や学校経営計画（評価）とグランドデザインの位置付けがどのようになっているのかを明確にして職員に周知しないと議論がしにくい。

・有効な議論をするためには、いつも話題に出る生徒募集の取組内容を具体的に委員へも周知してほしい。

・中学生へのまちづくりアンケートを実施したが、例えば「地元に残りたいか」という質問には、田舎、お店がないから残りたくないというような安易な判断が見られる。地域での教育に魅力を感じられていないのではないか。この場所で学べるよさをどのように伝えるのがよいのかを考えなければならない。行政も同じ悩みを抱えている。

・本校をどのような学校にしていくのか。存続させるのであれば、これを継続すると戦える戦略であるか。短時間の会議なので会議のポイントを絞って話した方がいい。中身のある会議にしたい。

・評価について事前資料もあるので、数値に基づいた議論をするべきである。取組→結果→改善→目標というような一連のストーリーとして話してほしい。学校満足度アンケートで気になるのは、現2年次生の数値である。例えば、「学校生活に魅力的に取り組んでいる」は「思わない」が１年次3.8%から2年次10%に下ぶれしている。「学校の生活が楽しい」は「あまり思わない」が1年次15.7%から2年次25.9%になっている。その結果を2年次の学校経営計画書にどう判断しているのかが見えない。評価に生かせていない。数字に基づいて何かしらのストーリーを描いてこの場に出していただけると我々もわかりやすい。

**（４）その他**

**４　事務連絡**

**５　閉会**